

小樽の歴史的建造物を巡ろう

原風景の祝津から近代建築の縮図まで

祝津のにしん漁場のまちなみと建物

祝津は、最もにしん漁場の建物とまちなみが生き活きと残っている地区である。江戸期から漁場として発展し、大正初期まで順調な漁を維持していた。昭和初期からにしんの回遊が途絶えたが、2010年久しぶりに群来（産卵の群れ）が見られた。今なお漁業を中心とする地区であり、日本海沿岸の中でも随一歴史的な漁場の建物が多く残っている。丘陵が海岸まで迫る祝津のまちなみは、かつて海岸に沿って開かれた小樽の原風景ともいえよう。

現在にしん漁場に関わる建物は道々小樽海岸線に沿って建ち並び、北海道有形文化財の旧田中家住宅（にしん漁場建築）をはじめ小樽市の歴史的建造物である近江家番屋、白鳥永作番屋、恵美須神社社殿、茨木家住宅（元場）、また国の登録有形文化財になった青山家別邸と石蔵、さらに近年修理された茨木家中出張番屋がある。

祝津の住民は、地区の特性を活かして積極的な活動を展開している。にしん祭りや歴史的な建物めぐり、夏休み中に子供たちを対象にした宿泊体験、花火大会を開催し、郷土愛にもえた動きが活発である。